

## 【日本の大学】第 83 回——武蔵大学：「少人数ゼミ」と「グローバル教育」を推進

武蔵大学は、鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた財界人が、「国家の繁栄は育英の道に淵源する」との信念のもとで、1922 年に創立した日本で初めての私立七年制高等学校である旧制武蔵高等学校がルーツである。

第 2 次大戦後の学制改革によって 1949 年に私立武蔵大学となった。教育の原点として「人間形成を根幹に、明日の新しい日本を担う、優れた人材を育てる」という建学の理想を掲げており、理想実現のため、「少人数制のゼミ教育」や「充実したグローバル教育」を推し進めている。

現在は、経済学部、人文学部、社会学部に加え、2022 年 4 月からは新たに国際教養学部が加わる 4 学部体制となっている。各学部では全学部共通の授業科目（総合科目、外国語科目、全学対象専門科目）と、各学部の専門科目を通じて「リベラルアーツ&サイエンス」の理念に従って広範かつ深遠な総合知と特定の専門知、さらに他者と協働する力・実践力を育てることを教育の基本目標としている。



大講堂。1928 年建築で、大隈記念講堂や日比谷公会堂を手掛けた佐藤功一氏による設計。

鉄道王が旧制武蔵高校を設立

以下、武蔵大学のホームページなどから大学の歴史と現状を見てみよう。

旧制武蔵高等学校を設立したのは、明治期末から昭和初期にかけて財界人として活躍した根津嘉一郎（初代）である。東武鉄道や南海鉄道など日本国内の鉄道事業に携わった財界人であったが、一方で、渋沢栄一が率いる渡米実業団の一員として米国を視察した際に、実業家たちが大学や美術館などに多額の寄付をしていることに感銘を受け、社会貢献を目的に学園を設立した。根津は古美術愛好家としても知られ、茶人でもあった彼の収集品を展示するため、没後に「根津美術館（東京都港区青山）」が設立されている。

新制の武蔵大学は1949年4月に開設され、ほぼ同時期に、武蔵中学校（同年同月）、武蔵高等学校（48年4月）が開校している。大学のキャンパスは、池袋駅から数分で到着する江古田駅から徒歩6分ほどの東京都練馬区豊玉上の緑豊かな場所にあり、全学部の学生が同一の場所で4年間学ぶ。

武蔵大学は当初、経済学部経済学科の1学部1学科でスタートした。経済学部には経営学科が増設されたのは1959年。2番目の学部として人文学部ができたのは1969年である。欧米文化学科、日本文化学科、社会学科の3学科からなっていた。同年には、経済学研究科大学院が設置されている。次いで、1973年には大学院の人文科学研究科が、1992年には経済学部には金融学科が加わっている。

人文学部の社会学科を改組して、社会学部（社会学科）として独立したのは1998年である。2004年には社会学部にメディア社会学科を増設している。



ケヤキ並木。正門を入ると正面にケヤキ並木が続く。

## 実社会とリンクした学外交流も

経済学部は経済、経営、金融の3学科で構成されているが、いずれの学科もその特徴として、少人数制ゼミがあげられる。1年次から4年次まで全員が履修し、2年次から所属するコースはゼミと結びついており、入学後に芽生えた興味にも対応できるように、所属学科にとらわれずにコースやゼミを選択できるようにカリキュラムを設けている。他学年の学生と共に学べる「縦ゼミ」もある。

ゼミでは、「ゼミナール対抗研究発表大会（ゼミ大会）」があり、経済学部的一大イベントとなっている。1年間の学びの集大成となるだけでなく、社会人審査員からの厳しい指摘や高度な質問があって、学生たちの成長の糧となっている。ゼミや授業では、金融機関の専門家による講義や、企業から提供された課題に取り組む活動など、実社会とリンクした学外交流も行われている。

経済学部では、2022年からは新たに世界規模の企業をリアルに学ぶ「グローバル科目」が開設された。グローバル科目には、海外に展開する企業の現場で活動を共にし、実態を体感する「海外インターンシップ」と、実際に企業が直面する課題解決にチームで取り組む「グローバル企業研究」という二つのプログラムが用意されている。



大ケヤキ（3号館中庭）。3号館の中庭で学生たちを見守る樹齢200年以上の大ケヤキ。

人文学部は英語英米文化、ヨーロッパ文化、日本・東アジア文化の3学科で構成されている。学部の特徴としては、地域文化を多面的に学ぶ充実した留学制度があげられよう。言語・文化・歴史・民族・思想・芸術・社会など、幅広い分野の学びを通じて異文化に対する理解力・共感力・連帯力を身につける。短期・長期での多彩な海外留学制度が用意されている。

教職課程や学芸員課程の履修も推奨している。学科の専門科目に関連科目が置かれ、課程の学修への便宜が図られている。外国人に日本語を教える力を養う「日本語教員プログラム」もある。2022年からは「言葉の力」と「世界を見る眼」を磨く二つのグローバルプログラムを開設した。一つ目のグローバルチャレンジ（GC）は、それぞれの学科で学ぶ地域の文化や社会を踏まえつつ、各外国語の運用力を徹底して鍛える。もう一つのグローバル・ヒューマニティーズ（GH）は、各学科で学ぶ地域に特化した知見に加えて、よりグローバルな観点から俯瞰的にとらえる眼を養う。

人文学部から独立した社会学部の特徴も全員履修のゼミである。卒業論文や卒業制作が必修となっているのも特色である。1年次の基礎ゼミ・応用ゼミでは、社会学を学ぶ上での基礎を作る。2年次にはインタビュー調査やアンケート調査、メディア制作技法を学ぶ方法論ゼミを履修する。3年次からの専門ゼミでは各自が掲げた研究テーマを掘り下げる。4年次には卒業論文や卒業制作に取り組む。

社会学部ではこのほか、学外で精力的に行うフィールドワークや、映像作品やCM、Webなどのメディアを製作する実習は、社会の実装に肌で触れる大切な学びの機会となっている。社会学科とメディア社会学科の2学科で構成。社会学科では、物事を多角的にとらえる視野・思考を育て、世の中に対して不思議に感じていることを解き明かし、論理的な言葉や文章にする力を磨く。メディア社会学科では、メディアが伝えるべき内容とその方法について学び、現代社会が抱える問題について考え、メディアを活用する力を育てる。

「社会調査士」の育成にも力を入れている。社会調査とは、企業による市場調査、政府・自治体の統計調査、メディアによる世論調査など、現代社会のリアルな姿を科学的に把握する専門技術である。指定科目の単位を修得することで資格を取得できる。過去5年間で年間平均50名が社会調査士に合格している。



大学図書館。

## 国際教養学部を創設

新たに創設された国際教養学部は、(1) 世界で学び、世界を知る教員陣 (2) 英語運用能力の育成 (3) 視野を広げるリベラルアーツ&サイエンス——を特色にしている。

日本国内において世界水準の学びを実現するため、海外大学での学位取得者をはじめ、国内外から多様な専門分野に精通した教員が集い、徹底した少人数教育を行う。ディスカッション

オンやフィールドワークなど、海外の大学と同様にインタラクティブで能動的な学習をサポートしていく。授業は英語で行われる科目を中心に構成されており、実践的で高度な英語運用能力を身につけていく。能力向上を目的に、集中的なカリキュラムを準備し、海外研修、留学、海外インターンシップなど、語学力だけでなく異文化に触れて視野を広げる機会を設けている。



3号館。1923年建築の、都内でも珍しい関東大震災を耐え抜いた建物。

専攻として、経済経営学専攻（EM専攻）とグローバルスタディーズ専攻（GS専攻）がある。EM専攻は、武蔵大学の学位と並行してロンドン大学の経済経営学士号の取得を目指す「パラレル・ディグリー・プログラム（PDP）」を軸に据えて、少人数での質の高い授業を展開する。GS専攻は、英語と異文化体験を通してグローバル人材の育成を目指す。国境を越えて人や情報が行きかう現代、世界は従来のはずみでは解決困難な課題に直面している。これらを見据えて、高度な語学力を養うとともに、国際関係、コミュニケーション、文化の側面から学際的に学びを深める。さらに留学や異文化体験を通して、地球規模の課題と向き合うグローバルリーダーを育成する。

大学では、建学当初から国際化、グローバル教育に力を入れている。価値観の多様化とともに急速に変わる社会の中、グローバルで活躍できる人材が求められており、大学では21世紀の課題を担う国際人を育てることを目指している。



国際村 Musashi Communication Village (MCV)。

新入学生は1年次に英語のクラス分け試験を実施し、その結果に基づいて、それぞれの英語力に合った授業を受けることを可能にしている。学部・学科ごとの必修及び選択必修の外国語科目に加えて、4学部共通で開講されている選択外国語は8言語の中から履修することができる。英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語であり、語学力向上のための学内試験や学習褒章制度も設けている。

学生数は4学部合わせて4492名、大学院は22名。専任教員は126名である。(以上2022年5月現在)

学長は高橋徳行氏である。慶応義塾大学経済学部を卒業し、国民金融公庫（現日本政策金融公庫）に入庫、バブソン大学経営大学院で経営学修士を取得、同公庫総合研究所主席研究員を経て、2003年から武蔵大学経済学部経営学科教授、2022年4月から現職。専門はベンチャー企業論（起業学）。

日文：滝川 進  
写真：武蔵大学 HP